

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05020050

政策目標	2 めぐもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	7 高齢者支援の充実	事業優先度	B	
単位施策	2 生活支援の充実	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	居宅老人交通費助成事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	交通費助成券の利用率		#N/A	
事業目標	全対象者への交通費助成	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 居宅老人交通費助成要綱	
住民協働		関係個別計画名	有 雄武町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	居宅老人交通費助成要綱に基づき、居宅において生活をする方の、通院等に要する交通費を助成すべく、居宅老人交通費助成券(ハイヤー基本料金助成券)を交付する。 対象者 (1)75歳以上で自動車を有していない者 (2)70歳以上のみの世帯で自動車を有していない者 (3)70歳以上で自動車運転免許証を自主返納した者 交付枚数 年間 24枚(夫婦世帯は18枚)	居宅老人交通費助成券を交付する。	居宅老人交通費助成券を交付する。	居宅老人交通費助成券を交付する。	居宅老人交通費助成券を交付する。	居宅老人交通費助成券を交付する。	
	事業費(千円)	23,000	4,600	4,600	4,600	4,600	4,600
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	22,500	4,500	4,500	4,500	4,500	
	その他	0					
一般財源	500	100	100	100	100		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,408	4,408	0	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	4,400					
その他	0						
一般財源	8	8					
関 連 事 項	特定財源の名称 地方債 過疎対策事業債 (ソフト分) 【評価・実績】	(実施内容等) ハイヤー利用助成券交付 ・助成券印刷代 ・交付枚数 10,386枚 ・利用枚数 8,154枚 (単身 352名・夫婦 125名) ※前年度評価結果 A—継続/現状維持	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	100%	100%	100%	100%	100%
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	96%	0%	0%	0%	0%
		全体達成率	19%	19%	19%	19%	19%
		事業進捗状況	☆☆☆☆				

事業名	居宅老人交通費助成事業	評価者 管理職 職氏名	保健福祉課長	豊田通敏
		評価者 作成者 職氏名	社会福祉係長	内宮真希

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	高齢者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	交通費助成券の利用率
【抱える課題やニーズは】	高齢者が健康で生きがいある生活が送れるよう、各種高齢者福祉サービスの充実など総合的な支援が求められている。	指標(指標計算式/解説)	目標年度 実績年度
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	高齢者の生きがいづくり、生活支援、社会活動への参加を促した。	① 利用された助成券の枚数÷ 交付した助成券の枚数=助成券の利用率	目標年度 実績年度 達成度
【その結果、どのような成果を実現したか】 ※成果=目的	外出する機会が少なくなりがちな高齢者に対してひとつのきっかけにするとともに、生きがいづくりや健康増進を図る。	②	目標年度 実績年度 達成度
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	助成券の交付	対象者からの申請に基づき審査を行い、交通費助成券を交付した。	
	交通費助成券利用分の支払い	交通費助成券利用分(基本料金相当)を第一ハイヤー株式会社へ支払った。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	自家用車を持たない町民の移動手段として、町内を走るハイヤーは最も利用しやすい「足」であり、買い物や通院など外出の際に要する利用料金の一部を助成することは、交通弱者への支援と負担軽減に繋がりに必要性は高い。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことで、高齢者の外出時における利便性が向上され、健康増進や生きがいづくりに繋がる手段として有効である。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	前年度の申請者については、あらかじめ申請書を作成しておくことで、申請書を記載する時間と待ち時間が短縮できた。今後も事務処理の工夫をしながら経費節減に努めていく。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

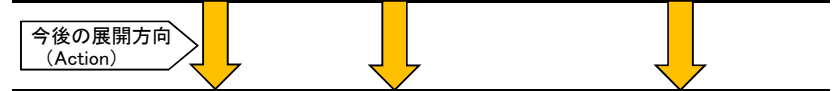
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	必要な条件を具備していれば、全ての申請者に交付されることから公平である。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
急激に進む高齢化社会において、高齢者一人一人が健やかに暮らしていくための有効な事業であり、今後も計画に沿って進めることが適当である。		



継続/現状維持		
高齢者にとって住みよい環境と安心した地域生活を提供するため、外出に際しての「足」の確保策として有効な事業であり、利用状況を精査しながら継続支援をしていきたい。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止